

年が明け、寒さがいっそう厳しくなってきました。体調管理には充分お気をつけください。現在会員登録数 1,309 人さま。本年も引き続きご愛読くださいますよう、よろしく申し上げます。次号は 2 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 41

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

2012年度開催の「第29回ニッサン童話と絵本のグランプリ」絵本の部入賞作品の原画展を開催しています。3月上旬に予定しています第30回（2013年度開催）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。

日 時：開催中～3月29日（土） *ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

入場料：無料

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 当財団編『子どもの本 100 問 100 答』（創元社）が好評発売中です。

子どもの本に関わる質問や疑問を 100 問にまとめて答えた「子どもの本ハンドブック」。子どもに本を読んでほしいと願っている人や図書館、家庭文庫や読書推進に関わる諸団体のための手軽で便利な相談ツールとして編集しました。書店等でお求めください。

書 名：子どもの本 100 問 100 答 司書、読書ボランティアにも役立つ

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団/編

発 行：創元社 2013 年 8 月 A5 判 224 ページ 1,800 円（税別）

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/05_publication/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『路上のストライカー』 マイケル・ウィリアムズ/作 さくまゆみこ/訳
STAMP BOOKS 岩波書店 2013年12月 対象年齢：小学校高学年以上
あらすじ：ある日、デオの住むジンバブエのグツ村に軍隊がやってきて、村人全員を虐殺する。デオは兄のイノセントと何とか生き延び、国境を越え、南アフリカの農場で働き始める。しかし、搾取されていることに気づいてジョハネスバーグに逃げ、ホームレス生活を始める。そこで、外国人襲撃に遭い、イノセントは命を落とす。デオはシンナーに手を染めてしまうが、ホームレスサッカーチームに入って生きる希望ができ、南アフリカ代表選手としてストリートサッカー・ワールドカップに出場する。

- O：ジンバブエ、南アフリカで21世紀に入って起こっている事実を追体験するような気持ちで読むことのできる迫力のある作品でした。
- Y：デオはジンバブエで家族を殺され、国境を越えるときには命の危険に遭い、南アフリカの農場で安い給料で働いていることを近くの村人に非難されて「出ていけ」と言われ、ジョハネスバーグでは橋の下に住み、ついにはゼノフォビア（外国人憎悪）のために障がいのある兄イノセントという生きる支えを失う。過酷な状況がこれでもかと繰り返し起こり、リアリティを感じました。
- O：南アフリカはネルソン・マンデラ大統領が選ばれ、アパルトヘイト政策が撤廃されたとはいえ、理想的な国になったとは言えない状況にあることが伝わってきました。
- Y：後半は、デオがホームレスのサッカーチームに入ることによって生きる力を取り戻していきます。デオはジンバブエにいるときからサッカーが好きで、手製のサッカーボールの中にお金を隠してイノセントと旅をします。
- O：サッカーで遊んでいる場面で始まって、世界大会の決勝戦が始まるところで結末を迎えるストーリーには一貫性がありますね。スポーツが国境を越え、みんなの心を結び付けるというメッセージが読み取れます。
- Y：大会の前に、さまざまな国から来た選手たちが、なぜ、ストリートで暮らすようになったかを語ることで、お互いを理解し合い、チームが一つになります。
- O：最後がハッピーエンドで終わったことで、物語としてはほっとしましたが、その一方で、未解決の問題が山積している状況や国とは何かという根本的な問題など、積み残された問題の多さにも気づくことができました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 41

その7 プログラムの立て方（3）全体の構成を考える：メイン

おはなし会の冒頭で短い絵本や詩などによってテーマの紹介がなされたら、次にどんな作品を用意したらいいでしょう。
冒頭より少し長いおはなしを語ったり絵本を読んだりしてメインへと少しずつ

つ盛り上げていく方法が一般的ですが、冒頭の絵本や詩のあと、集中力のあるうちにすぐにメインを持ってきて、後は余韻を楽しんでもらうというプログラムの組み方もあります。

プログラムのメインは、その日のおはなし会の中で「あーおもしろかった」と思ってもらえ、物語をたっぷり楽しんでもらえるような作品を選びたいものです。それはおはなしであっても絵本であってもかまいません。

「おはなし会」とは、本来、おはなしを楽しむものであり、おはなしの醍醐味とは、波瀾万丈のストーリー展開、個性的な登場人物、現実生活では見たり聞いたり体験したりできないような空間や時間や状況などが描かれることにあるからです。それらのおはなしを体験することによって、私たちは今の自分の生き方、ものの見方と比較し、新しい世界を切り拓くことができるのです。対象年齢にもよりますが、全体で30分程度のおはなし会であれば、メインの時間は10分前後が目安になるでしょう。

全体としては、一つのテーマを同じ角度からアプローチするのではなく、さまざまな角度からアプローチするプログラム構成が望ましいと思っています。すべてが日本の本であったり、同じ作者の本であったり、同じような手法の絵の本であったり、展開が似ていたりするのではなく、一つ一つの作品に個性が感じられ、それが全体として一つにまとまっているプログラムです。それは、おはなしを楽しむ＝多様な価値観を楽しむことにつながるからです。

*次号は「その7 プログラムの立て方（4）全体の構成を考える：本の紹介」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思っています。（Y）

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇 21 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

●毎日新聞データベースセンター 毎日フォトバンク

http://photobank.mainichi.co.jp/php/KK_search.php

日本最大規模と言われる写真のデータベースです。〈幕末以来の歴史を記録した貴重な写真・図表〉から、最新の画像もアーカイブして日々追加・蓄積し、登録数は43万件（2013年12月現在）にのびります。

どんな写真があるかと、試みに「児童文学」で検索（48件ヒット）。最も古いのは、大正15年に撮影された巖谷小波と長男・禎一（本名＝三一）の写真でした。写真に付されたキャプションは、「巖谷小波（児童文学者）と巖谷禎一（劇作家）。作詞家で俳人でもあった小波と長男の禎一は演出家としても活躍した」。小波の紹介に「作詞家」とありますが、〈あたまを雲の上に出し♪〉と歌われる文部省唱歌「ふじの山」など、多くの唱歌や校歌を作ったことで知られています。

他に、「灯火管制のもと翻訳を続けた」と紹介される村岡花子（昭和11年）や談笑する吉屋信子の写真（撮影日不詳）、さらに「紙芝居」で検索してみ

ると（118 件ヒット）、昭和 11 年以降、紙芝居がさまざまな局面で（教育的にも政治的にも）利用されてきた歴史が垣間見えます。

もう一つ、「毎日新聞社」ならではの写真として、雑誌「大毎コドモ」や「大毎小学生新聞」（のち「少国民新聞」「毎日小学生新聞」）の創刊披露パーティの様子や創刊を伝えるものなど関係写真があります。

やはり、写真から得られる情報はことのほか大きいと今更ながら痛感します。添えられていた記事そのものがセットで見られないのが残念ですが、それでも貴重な写真の数々、何かを調べたいときに役立つのではないのでしょうか。

（J）

※次号は、一次資料データベース篇〈その 22〉の予定です。

《4》 行って来ました！

愛知県の刈谷市美術館で開催されている「井上洋介図鑑展」に行ってきました。井上洋介といえば『アナボコえほん』（フレーベル館 1986 年）や『くまのこウーフ』（神沢利子/作 ポプラ社 1969 年）の挿絵などが思い浮かびますが、この展覧会では、60 年以上にわたっていろいろな分野で活躍されている創作活動が 4 章に分けて展示されています。

第 1 章「漫画」では、初期の新聞投稿作品や、同人誌や漫画誌などの掲載作品、漫画集などが展示されています。当時の作品の批評なども添えられていて興味深いです。一枚漫画を連続させて一つの物語にした「絵本金魚」などの絵本制作につながっているようです。

第 2 章「タブロー」では、油彩の大きな作品に圧倒されます。暗い色合いの地獄のような絵は一見グロテスクで怖い感じです。1945 年、14 歳のときに体験した東京大空襲の記憶が絵の中に織り込まれつつも、生きる力が感じられる絵で、じっくり見入ってしまいました。

第 3 章「絵本」では、絵本のデビュー作『おだんごぱん』（瀬田貞二/訳 福音館書店 1960 年）から最近の作品までの原画がもりだくさんで、制作過程のダミーなども展示されています。たわしが主人公の話や、橋を渡る間だけ誰もが馬になってしまう話など、どうしてこんなことを思いつくのだろうと思いながら、ひとつひとつ楽しみました。また、「くまのこウーフ」は、シリーズを追って絵柄が変わっていくのも見ることができました。

第 4 章「さまざまな仕事」では、寺山修司の「天井桟敷」の舞台美術や、ポスターや広告、雑誌「母の友」などの表紙、日本画の手法を使った小説の挿絵など、多岐にわたる仕事が紹介され、中には性を強く感じさせる作品も含まれています。暗幕を張った真っ暗な小部屋があり、展示された絵の世界に引き込まれるようで少し怖かったです。

これまで絵本でしか井上洋介を知りませんでした。こんなに奥深い世界があり、生と死を見つめ続けた視点があるからこそ、ウーフやナンセンス絵本が描けるのだと納得しました。また、美術館の敷地内にある茶室では、ウー

フそっくりの和菓子が食べられるそうです。(K)

【3】全国のイベント紹介

●東淀川えほんまつり ～笑顔いっぱい、絵本いっぱいの東淀川

開催日：2月2日（日）

場 所：クレオ大阪北（大阪市東淀川区東淡路）

参加費：すべて無料

◇午前の部：講演会「絵本でひろがる みんなの笑顔」

講 師：村中李衣（絵本・児童文学作家）

開 演：午前10時30分

定 員：300名（申込み先着順）

◇午後の部 午後1時～4時 申込不要

・絵本ライブ 岸田典大（絵本パフォーマー）午後1時30分～/午後3時～

・絵本バンクの絵本展 ・ボランティアによる絵本読み聞かせ など

問合せ：東淀川絵本読み聞かせ事務局

●大阪府子ども文庫連絡会 公開講座

「学校図書館が動き出すと子どもが変わる、学校が変わる

～本を読む子は必ず伸びる～」

講 師：五十嵐絹子（学校図書館アドバイザー）

日 時：2月4日（火）午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会

場 所：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区北堀江）

参加費：無料 資料費：実費 申込み：必要

●大阪国際児童文学館を語る会 考える会 2014

ーすべての子どもに本のよこびをー

第1部 「児童文学の昨日、今日、明日」 講師：富安陽子（児童文学作家）

第2部 意見交流会

第3部 馬頭琴コンサート 演奏：「生音空間」岡林立哉

日 時：2月11日（火・祝）午後1時30分～4時30分

場 所：エル・おおさか本館 2階文化プラザ（大阪市中央区北浜東）

参加費：有料 申込み：必要

主 催：大阪国際児童文学館を育てる会

●藪内正幸さんの動物たち展

◇原画展

期 間：2月11日（火・祝）～3月2日（日）

会 場：大阪府立大型児童館ビッグバン 4階（堺市南区茶山台）

料 金：無料 ただし、ビッグバンの入館料が必要

◇講演会

講 師：藪内竜太（藪内正幸美術館 館長）

さとうあきら（藪内正幸美術館 外部広報員、動物・写真家）

日 時：2月11日（火・祝）午後2時～4時

場 所：堺市立南図書館 3階ホール（堺市南区茶山台）

参加費：無料

定 員：60人 申込み：必要

主 催：お話と楽しく出会う会「あったとき」

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「ＹＯ！この本読んだ？」で紹介しました『路上のストライカー』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.41プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は2月11日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

信州の山深い温泉に出かけた。温泉三昧・酒三昧の生活を4日繰り返した。旅館の夕食に山女魚が出た。大阪で溪流の魚を食することはなかなか難しい。雪で散歩も思うに任せなかったが、コーヒーでもと入った店に岩魚があった。おいしかった。翌日も出かけて岩魚を注文した。これだけで来た甲斐があった気がした。以前、難波に骨酒を吞ませる店があった。地下街の店も入れ替わりが激しい。好みの店に限って消えるように感じるのは私だけだろうか…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
